

## 掲示板

### JSA 誌に投稿をお考えの方へのお願い

Journal of Surface Analysis (JSA) 誌は、印刷媒体だけでなくオープンアクセスジャーナルとして表面分析に関連する技術の公開を行い、表面分析研究会の会誌の枠を越えて国内外より数多く引用して頂いています。JSA 誌は、「高い再現性をベースにした表面分析技術の発展に貢献する」ことを目的としています。そして「表面分析の現場の知恵を集め、それを分かり易い形で掲載する」ことを手段として、この目的を実現いたします。この手段に関して、JSA 誌に投稿をお考えの方々に以下のお願いをさせていただきます。

ご存知のように、再現性が高く必要な情報を保持した良い分析データを得るには、試料の前処理、分析装置の較正、測定条件の最適化、データ処理などの分析のプロセスを深く理解することが不可欠です。分析データを解析した結果の中で、うまく解釈が付いたいわゆる綺麗な結果は、論文等を通して公開されますが、分析のプロセスの詳細については、論文等に記載されることは稀です。そのため綺麗な結果が書かれた論文を読むだけでは、実際の現場で良い分析データを得られないという課題が残ります。そこで JSA 誌は、このプロセスを重視した記事を多く掲載し、その記事を通して読者が実験やデータ解析の方法を深く理解し、その記事を頼りに現場で作業が進められることが重要と考えています。

そのために、筆者の方々には、以下の3点に留意頂き、実験やデータ解析のプロセスを分かり易く書いて頂くことをお願い致します。

#### ①用語の分かり易い説明

専門家でない読者に容易に理解できるように、記事中にあります多くの用語には分かり易い説明文を付けて頂きますようお願い致します。

#### ②具体例の記述

一般に、概念が書かれた教科書を読むよりもその概念を具体化した演習問題の解き方を書いた本を読む方が理解が深まりますので、JSA 誌では具体例を多く記載頂くことを歓迎いたします。

#### ③複数の視点からの記述

複数の視点で書かれた記事は、読者の理解を助けます。例えば、成功例の視点だけでなく失敗例の視点でも書かれた記事は、読者の理解に大きく役立ちますので、JSA 誌では失敗例の記載も歓迎いたします。

JSA 誌では、著者と査読者の議論を論文の付録として掲載いたします。これは、異なる視点を持つ著者と査読者の議論の掲載は、読者の理解を助けるからです。

昨今の表面分析の分野では、分析装置の性能が向上し対象とする材料系が複雑化して、分析業務が多様かつ高度になっております。ところが、現場では表面分析に関する技術の継承が難しくなっており「進化する表面分析技術を使いこなせない」という問題を少なからず生じております。この状況下で、JSA 誌の役割は今後大きくなると考えておりますので、ご執筆をお考えの皆様には、表面分析の部署に本日配属になった新人の方を読者として想定してご執筆頂きますようお願い致します。

編集委員長 吉川英樹